

公開座談会

# 地域を超える制作者

PmP2006参加者が中心となり、そこから生まれた新しい公演企画を報告すると共に、首都圏の制作者向けにツアー相談を行なうラウンドテーブルが、2008年1月27日に森下スタジオ(東京・森下)で開催されました。地域を代表する制作者に直接相談出来る機会は東京でも初めてとあって、盛況でした。当日の公開座談会の模様を再録します。

## 複数企画のタイミングが合致

——お二人は「Meets! 2007」という多彩な企画を主催・共催されています。東京を飛び越え、札幌と福岡が結び付くのは非常に珍しいと思いますが、きっかけはなんでしょう。

**小室** 2006年秋ごろ、劇団イナダ組主宰のイナダさんと、コンカリーニョ理事長の齋藤ちずが、福岡にギンギラ太陽'sという何千人も動員している劇団があるので、エクステンジ公演でも出来たら面白いねという立ち話をしたことがありました。当時のコンカリーニョスタップが北九州の飛ぶ劇場を非常に好きで、なんとしても呼びたいとがんばっていたこともあり、私は私でPmP2006の横のつながりをなにかに活かせないかと考えているときでした。同時期に、札幌と福岡の劇作家と一緒に脚本をつくって、それぞれ公演する共作プロジェクトが出来たら面白いと考えていたこともあり、齋藤に相談して一つの交流イベントということでやっただけいいんじゃないかという話になりました。

**高崎** 福岡と札幌でそういったことが出来ないかという話は、数年前から齋藤さんと酒飲み話的にはしていたのですが、いざ小室さんから相談があったときには、あまりにも企画が大きいことや、札幌と福岡ではやっぱり人の移動も経費がかかりますし、正直最初は無理だろうと思っていました。小室さんがあまりにも熱く語るのもうげにも

出来ず、「やれるといいですね」みたいな感じでニコニコして……。その後小室さんが助成金の申請もされて、財政的な裏付けが十分に出来たこと、あくまでコンカリーニョが主催で、私どもの金銭的なリスクは少ないという展開になってきたので、安心して協力出来るようになりました。

——以前から地道な交流があったからこそ、実現したわけですね。

**高崎** そうですね。やはり企画が素晴らしくても、ある程度の信頼関係や「この人だったら一緒にやっても大丈夫だな」というのがないと、出来ませんね。

**小室** 今回は東京や関西での公演は全く考えませんでした。同じような都市の人たちがやっているのを見て、刺激を受けてもらいたいということがありました。

## 助成金の採択で実現した公演

——どのカンパニーを地域の代表として送り出すか、苦労されたと思います。

**小室** イナダ組に関しては札幌でもいざばん人気のある劇団ですし、元々イナダさんがやりたいと言われていました。千年王國は福岡に持っていった「イザナギとイザナミ〜古事記一幕〜」という作品が、日本演出者協会の若手演出家コンクールで最優秀賞を受賞した作品で、なおかつ出演者が2人という旅向きな作品でした。飛ぶ劇場は私たちが純粋に好きなので、ぜひ呼びたかったわけです。

**高崎** 団体の選定は札幌側でされているのですが、私は10年くらい前から札幌にすごい劇団があるという噂は聞いていて、イナダ組やTEAM NACSの名前は知っていました。千年王國は若手演出家コンクールで賞を取られたりして、今回のラインナップを聞いたときにはすごくいいと思いました。私も観たいカンパニーだなと感じました。

**小室** カンパニー側も興味はあるけれど、やっぱりお金のことがいちばん心配だと思います。イナダ組公演に関しても、最初から「すぐにやっちゃいましょう」という感じではもちろんなかった。最終的にはイナダさんが「全くの手打ちでやります」と言われたのですが、まずはワークショップとシンポジウムと脚本共作という三つのイベントに関して、セゾン文化財団に申請しました。公演の費用は全くないので、飛ぶ劇場の札幌公演に関しては、コンカリーニョが2007年からいただいた文化庁芸術拠点形成事業の自主企画でやりました。イナダ組と千年王國に関しては、文化庁の「舞台芸術の魅力発見事業」で旅費と道具の運搬費が出ることになりました。



公開座談会

やはり企画が素晴らしくても、ある程度の信頼関係や「この人だったら一緒にやっても大丈夫だな」というのがないと、出来ませんね。——高崎



**小室明子**

NPO法人コンカリーニョ

1974年生まれ、札幌市出身。大学在学中より演劇に関わり、卒業後は並行して雑誌社に勤務。考えるところあって2001年上京。フリーライターとして働きつつ、演劇界をうろろする。PmP2006参加を機にやっぱり札幌の演劇界でやっていたと決意。07年4月帰札。NPO法人コンカリーニョ職員として勤務。「Meets! 2007」プロデューサー。

——文化庁の助成金が多い割合を占めているようですが、それがないと実現は無理でしたか。

**小室** 無理だったと思います。お金の目途が全然立たない状態だったので、本当に出来るのかなあと……。

これはこっちでも応用出来るんじゃないかと、演劇人たちにいろいろ還元出来ないかと。最終的にはなにか一緒に作品をつくったりすることも出来たらいいと思います。——小室

**高崎** 千年王國は福岡市文化芸術振興財団の助成金を取りましたが、それ以外に福岡側は人を出して受付の手伝いをしたりとか、チラシを配ったりした程度です。ワークショップやプロモーションのお手伝いはさせていただいているのですが、基本的にお金は動いていませんね。

## お互いの存在に刺激を受ける

——今回はワークショップやシンポジウムを公演と同等に位置づけてらっしゃると聞きましたが、具体的にご紹介ください。

**小室** イナダ組は福岡公演10日前にワークショップと、どうやって札幌で1万人の動員を達成したかという劇団戦略の話をしました。飛ぶ劇場札幌公演のときは、「地域劇団が旅に出る理由」というテーマで、演劇の地域性などの話をしました。今回はすごく雨が降るお芝居で、北海道はそんなに雨が降ることがないので、とても新鮮だったんですね。美術にしても、北海道の家に付いていないものがあるのも楽しい——そんな話題が出ました。千年王國の福岡公演では、主宰の橋口幸絵さんと福岡の山田恵里香さん(空間再生事業 劇団GIGA)の対談でした。札幌には女性演出家というのが全然いなかったので、男社会の中で女性性というのを抑えながらやっていて、それじゃあ福岡ではどうだろうと引き合わせてみたら、なんだかすごく気が合いました。旅公演に行くだけだと、行って帰ってきて終わることになると思うのですが、なにを考えて札幌はやっているのかと

ここがすべての始まりでした。そもそも、今年度は公演費用のメドもつかないしとりあえずワークショップで福岡の演劇人と交流をしてみようか、という状況の中、イナダ組主宰のイナダさんが手打ちながら「福岡公演をやる」と決断したことから、企画全体が大きく動き出した気がしています(後日、公演に助成金があり大変助かりました)。意外なことに、イナダ組劇団創立15年目にして初の道外公演。9月も終わりに近いというのに、北海道の真夏よりも暑い福岡での公演でした。

公演を前に行ったワークショップの中で、「今回の我々の公演が失敗に終わっても次に繋がってほしい」と言っていた



**高崎大志**

PINstage代表 / NPO法人FPAP事務局長

高校の時、友人に誘われて演劇部に入る。九州大学演劇部を経て、劇団針穴写真館旗揚げ。役者・制作・照明・舞台監督。同劇団解散後、スタッフ面から地域劇団を支援するPINstageを設立。地域の劇団の制作・照明等を請け負う。2003年NPO法人FPAP設立、事務局長をつとめ現在に至る。

か、これはこっちでも応用出来るんじゃないかと、演劇人たちにいろいろ還元出来ないかと。最終的にはなにか一緒に作品をつくったりすることも出来たらいいと思います。

——相手先での作品への反応はいかがでしたか。

**小室** また来て欲しいとか、すごく刺激を受けたとか、よかったと思います。

**高崎** 両団体とも大変評価が高かったですね。「CoRich舞台芸術!」という演劇情報サイトがあり、福岡で利用されている方が結構多いのですが、いずれも高い評価でした。福岡にはないタイプの芝居ということで、お客さんにも喜んでいただきましたし、表現者自身が福岡にないタイプの芝居を観て、影響を受けたということがあります。正直に言いますが、札幌は全国区というか、他の地域に出しても恥ずかしくないクオリティの作品が相当ありますね。福岡はギンギラ太陽's、飛ぶ劇場を別にすると、それ以外のカンパニーで、全国区で勝負出来るクオリティのものは、まだまだこれからなのかなあと……。そういった意味で、札幌はイナダ組、TEAM NACS、千年王國、もうちょっと下の世代にしても他の地域に持っていきけるカンパ

同じくらいの規模の都市で、イナダ組や千年王國のクオリティの芝居を観て、地域にいることは言い訳にならないという声を聞きました。

——高崎

イナダさん。まさにその言葉通りに、次へと繋げてくれました。あ、もちろんイナダ組公演も失敗ではありませんでしたけど。

地域の演劇が東京の演劇のマネをしても上手くはいかない、というのが最近私が感じていることです。他の地域の演劇環境を見ていろいろなことを考えようと思った企画ですが、今振り返ってみれば、公演だけでも、公演抜きにもここまでの「繋がり」はもてなかったと思います。もちろん、ほか2公演も同様に、作品がとも面白かったことも重要な要素です。イナダさんの英断に、感謝です。(小室明子)



撮影/高橋克己

Meets! 2007

劇団イナダ組『コバルトにいさん』

関連イベント: 「イナダのワークショップ in 福岡」 2007年9月11日[火] ゆめアル大橋

福岡